

# 伝統の手漉き和紙製造技法を 現代風に活かす計画をサポート

## 課題 製造工程のトラブルや 手間でニーズに対応できず

1300年前から続く阿波手漉き和紙の製造技法は、県の無形文化財に指定されている。富士製紙企業組合の代表理事は平成28年、先代に続き、同技法の保持者として認定された。

同組合では現在、壁紙などのインテリア建材、アーティスト向け美術紙、デジタル印刷用紙など、さまざまな和紙や和紙製品を製造・販売している。新機能をもつ和紙の開発、機械化、自動化にも取り組んでいるが、職人の手作業の工程も数多くあるため、技能を伝承するためのデータベース化もを行っている。しかし、多様なニーズに応えられないケースも多く、次のような課題が挙がっていた。

- ①アーティスト向け美術紙のシェア拡大を目指すには、価格競争力のある高付加価値商品を量産化する必要がある。
- ②和の文化への関心の高まりからパッケージや販促物への和紙ニーズはあるが、製造工程の給紙トラブルがボトルネックとなって対応が困難だった。
- ③従来のアーティスト向け美術紙は薄いものだったが、厚紙も求められるようになった。しかし、機械抄き製造工程では不具合があり、手作業の工程が増えている。
- ④製品の品質を左右する原料貯蓄層の不具合から低品質、印刷機給紙エラーなどが発生している。

## 支援 数回にわたり ものづくり補助金で支援

支援にあたった吉野川市商工会では、①～④の課題解決には新しい設備の導入が不可欠と判断。それぞれの課題に対して、ものづくり補助金の申請で以下の対応を支援した。

①の価格競争力のある高付加価値商品は、エッジ（耳）付きの機械抄き和紙とした。当時は類似品がなかったため。手漉き和紙の特徴を機械抄きで再現するための設備をものづくり補助金で導入して、独自の和紙を開発。これにより手漉きの20～30倍の量産化が実現し、生産コスト面でも優位性を確保できた。

②については、ものづくり補助金を申請するため、印刷業界をターゲットとして、本物の和紙で高速印刷に適した新しい和紙を開発する事業計画の作成を支援。印刷に適した革新的な商品を開発することができた。



職人の技術の伝承も進めながら手漉き和紙の可能性を追求

③は、ものづくり補助金の申請にあたり、従来の工程を見直し、裁断・積層の工程を自動化およびデータベース化し、厚手の和紙を試作する計画書の作成を支援。厚手の和紙の需要に応えられる体制が整った。

④については、ものづくり補助金の申請で、和紙の品質向上と安定生産を実現するための設備を更新・導入し、とくに高品質が求められる壁紙などの市場拡大に取り組む計画書を作成支援した。その設備投資で、市の先端設備等導入計画の申請に向けた準備を進めている。

### 支援の経過

| 期間     | 支援内容          |
|--------|---------------|
| H25年3月 | ものづくり補助金の申請支援 |
| H26年4月 | ものづくり補助金の申請支援 |
| H27年4月 | ものづくり補助金の申請支援 |
| H30年4月 | ものづくり補助金の申請支援 |

### 会社概要

会社名：富士製紙企業組合  
 住所：徳島県吉野川市山川町川東136  
 電話番号：0883-42-2035  
 URL：http://www.awagami.or.jp  
 代表者名：代表理事 藤森洋一  
 創業年：昭和27年  
 年間売上高：2億5595万円（平成29年）  
 従業員数：34名  
 商工会名・担当者名：吉野川市商工会・塩田由香